

討論

第22号議案・平成23年度白石市一般会計予算

反対 水落 孝子

本予算の中で、住民要求に基づいた住宅リフォーム補助金交付事業、市民バス路線のない地域に新たに市民タクシー3路線試験運行の検討、保育園の延長保育とゼロ歳児保育の定員拡大、また、今まで広報掲載だけであった産直センターへの支援に1か所予算がついたことなど、評価できるものがある。しかしながら、財政運営の手法と放課後児童クラブ運営に関し、運営費に格差を持ち込んだことに容認できないものがある。

施政方針の中で、今後も集中改革プラン〔改訂版〕に基づき業務の効率化、歳入確保、歳出削減など、より一層の行財政改革を強力に推進すると述べている。業務の効率化、歳入確保は当然と考える。しかし、どれも同じ物差し

で経費削減をするのではなく、自治体の役割である福祉の増進に努め、暮らし、福祉、教育には、道理ある住民要求に対し予算を回す行財政運営に転換すべきと考える。

2点目に、放課後児童クラブが一つ増え5か所になることは、大変喜ばしいことだと考える。しかし、既存の4か所は市直営で運営されてきた。今回増えることになった1か所は、大平公民館運営会議が運営し、市が運営費を補助する形をとる。この運営費算定の基準が低過ぎるのではないかと考える。

国の意向である子ども・子育て新システムの方向にかじを切ったように感じる。今回の民間委託は、いずれ4児童クラブにも適用していく方向への初めの一歩になっていくのではないかと危惧する。よって本案に反対である。

賛成 鈴木 康弘

本年度の予算では、平成20年9月のリーマンショックが尾を引く景気の低迷などから、特に市税においては前年度と

比較して3億5千万円減少する未曾有の歳入減少から、当局はこれまでの市民サービスを堅持する予算編成に相当難儀されたと思う。

このような財政状況において、とりわけ住宅の安全性、耐久性の向上と地域経済の活性化を図る「ほっと住居事業」は、時宜を得たものである。また、お年寄りから赤ちゃん、生活弱者、男性・女性、すべての市民に最少の経費で最大の効果が図られる、きめ細かな行政サービスの予算が計上されていると確信している。

また、第四次総合計画で掲げた戦略「4万人都市復活大作戦」の施策を、平成23年度からスタートする第五次総合計画の新たな戦略テーマ「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」の施策に発展・継承することは、事業の継続性から適切と思っている。

国内外の厳しい社会・経済の状況の中、今後においても、目先にとらわれない長期展望のもと、市民が安全に安心して暮らせる最大公約数としての市民サービスが展開されま

すとともに、財政調整基金などの3基金を有効に活用し、健全な財政運営に一層努められますようお願いする。よって、本案に賛成である。

◎第3号議案・白石市一般会計補正予算（第7号）

賛成 菅野 恭子

本案は、市民の生命と健康を守る子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の3ワクチン予防接種事業を含む重要なものである。

3ワクチンとも接種の効果が高く、特に子宮頸がんワクチンは、検診と合わせてほぼ100%予防できるものである。しかし、これらの接種には高額を要するため、接種を見送ってきた方々が多くいる。このたび国庫負担が明確になったことから、本市も不足を負担し、全額無料接種の方向に動いたこと、早期実現に向け関係機関との速やかな協議推進は大変に喜ばしいことであり、評価するものである。よって、本案に賛成である。



2月21日の予算審査特別委員会を大平小学校6年生の皆さんが傍聴しました。

大平小学校6年生議会傍聴の様子